vinetur

フランス、オクシタニー地方のワイン生産見通しを1,107万ヘクトリットルに上方修正

8月下旬の雨でラングドック・ルーションの収量が改善し、熱波と干ばつの影響を補った

2026年11月10日（火）



フランスは11月10日火曜日、南部オクシタニー地方における2026年のワイン収穫量見通しを引き上げた。8月下旬の降雨により、国内有数の生産地域の一つで収量が改善したためだ。一方、同地方のブドウ畑は夏の大半にわたり、熱波の繰り返しと深刻化する干ばつに見舞われていた。

フランス農業省の地域機関であるDRAAF Occitanieは、11月10日火曜日に発表した報告書で、2026年のラングドック・ルーション地域の生産量を1,107万ヘクトリットルと推定した。前月の見通しから大幅な上方修正となり、不作だった2025年を25.0%上回る。オクシタニー地方内の南西部も上方修正され、193万ヘクトリットルとなった。2025年比では11.6%増となる。

同機関によると、オクシタニー地方全体の収穫量は、作付け可能なブドウ畑の面積が6,000ヘクタール超、率にして2.8%減少したにもかかわらず、2025年比で18%増える見込みだ。地方全体の生産

量は過去5年平均を1.5%上回り、収量は2022年の収穫期に近い水準となる見通しだ。

ラングドック・ルーションはブランドワインとバルクワインの双方を供給する主要地域であり、今回の数字はワイン取引にとって重要なシグナルとなる。同地方の収穫量が増えれば、在庫を管理したり大量にワインを購入したりするワイナリー、商社などの飲料関連企業の供給見通しに影響する可能性がある。ただし、フランス全体の収穫量は歴史的な基準から見ると依然として低い水準にある。

DRAAF Occitanieによると、生育期は良好な条件の下で始まった。冬から早春にかけての降雨で土壌水分が回復し、目立った霜害もなかったため、地方全域で順調に萌芽が進んだ。ところが5月末、異例に早い高温が訪れ、一部のブドウ畑では気温が華氏95度、摂氏35度を超えた。6月下旬から9月上旬にかけては、4回の熱波が相次ぎ、土壌の乾燥も週を追うごとに進んだ。

地方当局の報告書によると、8月後半の降雨が干ばつと極端な暑さによる被害を抑え、当局は収量見通しを引き上げた。それでも同機関は、地方全体の概況の陰に、ブドウ畑ごとの大きな差が隠れている可能性があると警告した。灌漑の利用状況、局地的な降雨、土壌の保水力などの条件によって大きなばらつきが生じる可能性があり、全体推計ではそうした差を捉えきれないという。

ラングドック・ルーション地域の県別の数字では、エロー県が471万ヘクトリットルで最大となり、オード県が329万、ガール県が263万、ピレネー・オリアンタル県が43万ヘクトリットルと続いた。

オクシタニー地方の上方修正は、フランス全体の生産見通しの引き上げにもつながった。Reutersが11月9日月曜日に報じ、ESM Magazineが掲載した別の月次推計では、フランス農業省は2026年のワイン生産量を3,670万ヘクトリットルと見積もった。10月時点の予測は3,490万ヘクトリットルだった。新たな推計では、農業省が「今世紀で最も少ない」とした2025年の収穫量を上回るものの、2021～2025年平均をなお10%下回る。

Reutersによると、農業省は全国見通しの上方修正の主な要因として、フランスのワイン生産量の約半分を占めるラングドック・ルーションとシャラントで収量が予想を上回ったことに加え、シャンパーニュと南東部の見通しが改善したことを挙げた。フランスはイタリアに次ぐ世界第2位のワイン生産国である。

生産見通しが引き上げられたとはいえ、全国の収穫量はブドウ畑の面積縮小と複数地域での天候被害により、依然として抑えられている。農業省統計局Agresteによると、縮小計画の影響でブドウ畑の面積が減少したほか、夏の高温と干ばつが収量を押し下げ、とりわけ北部のワイン産地で影響が大きかった。

フランス各地で影響にはばらつきがあった。Reutersによると、シャンパーニュの生産量は霜、雹、干ばつ、夏の熱波に見舞われたため、2025年比で38%減る見込みだった。ブルゴーニュ・ボージョレは22%減、ロワールは7%減と予測された。ボルドーは2025年比で10%増えると見込まれたが、ブドウ畑の撤去などの影響で、過去5年平均を11%下回る見通しだった。

11月のデータで最も顕著な変化の一つは、ラングドック・ルーションと他地域との対照だった。Reutersによると、農業省は10月時点では同地方の増加をわずか2%と見込んでいたが、夏の終わりの気象条件を受け、大幅な上方修正に至った。フランス有数の重要なワイン産地が、歴史的な少なさの収穫量、ブドウ畑面積の縮小、収量に及ぼす異常気象の影響拡大という制約が続く全国的

な状況とは異なる動きを示している。